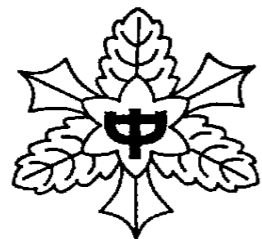


令和8年度 各教科

年間指導計画と評価の観点

第1学年

- 国語科
- 社会科
- 数学科
- 理 科
- 英語科
- 音楽科
- 美術科
- 保健体育科
- 技術・家庭科



八王子市立ひよどり山中学校

本校の観点別評価「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に取り組む態度」の割合は、全教科1:1:1となります。

| 月 | 時数 | 単元(教材) | 学習内容 | 指導の工夫点 |
|----|---------|---------------------|--|------------------------|
| 4 | 1 | 授業開き／ふしぎ | ●魅力やおもしろさを発見する。 | |
| | 1 | 聞くということ | ●言葉を通して自分と相手を理解する。 | |
| | 2 | お気に入りの一品を紹介する | ●伝えたいことを明確に発表する。 | |
| | 4 | 桜蝶 | ●文学作品の構成や展開を理解する。 | |
| 5 | 2 | 言葉の単位 | ●文章・段落・文節・単語を理解する。 | |
| | 5 | 自分の脳を知っていますか | ●文章の中心的な部分に着目し内容を捉える。 | |
| | 6 | 資料をもとに紹介文を書く | ●資料を比較して共通点と相違点を見つける。 | |
| 6 | 1 | 漢字の部首 | ●部首について理解する。 | |
| | 2 | 日本語の音声 | ●日本語のもつ音の特徴を理解する。 | |
| | 4 | 構成を考えて話す | ●聞き手にわかるように内容を説明する。 | |
| | 4 | ベンチ | ●本文から情報を得て、身につける。 | |
| 7 | 4 | 全ては編集されている | ●写真を見るとき観点を知る。 | |
| | 2 | 写真で「事実」を表現する | ●根拠を明確にして、文章を書く。 | |
| | 1 | 画数と活字の字体 | ●画数と活字についての理解を深める。 | |
| | 2 | 材料を整理して案内文を書く | ●比較や分類、関係づけなどの情報の整理の仕方について理解する。 | |
| 9 | 3 | 持続可能な未来を創るために | ●作品の構成や展開、表現の特徴について自分の考えをもつ。 | 便覧(資料集)を使用する。 |
| | 5 | 森には魔法使いがいる | ●問いとその答えを見つける。 | |
| | 2 | 文の成分 | ●文の成分を理解する。 | |
| | 2 | 書写 | | |
| 10 | 5 | 根拠を明確にして意見文を書く | ●意見と根拠の関係を理解する。 | グループでの話し合いを通して、理解を深める。 |
| | 1 | 昔話と古典 | ●登場人物の行動や場面を捉え、作品の理解を深める。 | |
| | 4 | 物語の始まり | ●古典、古典の仮名遣いのきまりを知る。 | |
| | 3 | 故事成語 | ●物語について調べたり、話し合ったりして、そのおもしろさを理解する。 ●いろいろな故事成語の由来や意味を理解する。 ●漢文訓読のきまりを理解したり、音読したりして、文章の響きを味わう。 | |
| 11 | 2 | 蜘蛛の糸 | ●わが国を代表する作家とその作品についてふれ、近代の小説や物語を読む。 | 友達のスピーチを聞いて、自分の表現を活かす。 |
| | 2 | 河童と蛙 | ●場面と描写を結びつけて読む。 | |
| | 7 | オツベルと象 | ●語句の意味や擬声語、擬態語について工夫し理解する。 | |
| | 4 | 随筆を書く | ●自分の考えとの共通点や相違点を整理する。 | |
| 12 | 1 | 日本語の文字 | ●文字の特徴をつかむ。 | |
| | 4 | 子どもの権利 | ●専門的な事柄を現す語句の意味を押さえる。 | |
| | 3 | 調べた内容を聞く | ●得た情報を整理して、共通点と相違点を踏まえて考えをまとめる。 | |
| | 1 | 漢字の音と訓 | ●漢字の音と訓についての理解を深める。 | |
| 1 | 5 | 言葉がつなぐ世界遺産 | ●筆者のものの見方や考え方を捉えるとともに、言葉のはたらきについての自分の考えをまとめる。 | 動画を使用して手順や筆遣いを確認する。 |
| 4 | 地域から世界へ | ●読み手の立場に立って、文章を整える。 | | |
| 3 | 報告文を整える | | | |
| 3 | 書写 | | | |

| | | | |
|---|---|-------------------|---|
| 2 | 1 | 単語のいろいろ | ●自立語について理解する。 ●話題を意識して話し合い発言に結びつける。 ●熟語の構成の基本的な型を知る。 ●語り手に着目して作品を読み、自分のものの見方や考え方を広げる。 ●場面の展開や人物の描写に注意して、登場人物の心情の変化を捉える。 |
| | 1 | 発言を結びつけて話し合う | |
| | 7 | 熟語の構成 少年の日の思い出 | |
| 3 | 4 | 四季の詩 | ●描写のイメージをふくらませる。 ●方言と共通語の特徴について知る。 |
| | 1 | 方言と共通語 | |
| | 2 | 書写 | |

令和8年度 国語科 1学年 評価計画

| 観点 | 観点の内容 | 観点の指導目標 | 評価材料 |
|----------------|--|--|---|
| 知識 技能 | 社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使っている。 | 言葉の意味を適切に理解し、使うことができている。 語感を磨き、語彙を豊かにすることができる。 | ・ノート ・漢字テスト ・音読テスト ・提出物 ・定期考査 |
| 思考 判断 表現 | 「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりする。 | 作品を通して作者の考えを捉え、自分の考えをまとめることができる。 わかりやすく伝わるように、文章の構成を工夫することができる。 | ・ノート(自分の考えを述べるができる。) ・スピーチ ・発言 ・聞き取りテスト ・グループ討議(自分の意見と他の人の意見を比べ発展させることができる。) ・作文(論理の展開や話の構成を工夫することができる。) |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いや考えを深めたりしながら、言葉がもつ価値を認識しようとしているとともに言語感覚を豊かにし、言葉を適切に使おうとしている。 | 積極的に発言し進んで学習課題に取り組むことができる。 | ・ノート ・ワークシート ・音読カード ・定期考査 ・発言 ・授業態度 |

《補足》
ノート・ワークシートなどには自分の意見や感想、他の人の意見などをまとめたり、記録したりする。
学習した語句や漢字を作文において適切に使うことができる。

| 月 | 時間 | 単元 | 学習内容 | 指導の工夫点 |
|------------|----|---------------------|--|--|
| 1学期 4 | 6 | 【地理的分野】 世界の姿 | 地球の姿・地球儀と世界地図・地球上の位置 世界の国名と位置 | ・教科書や資料集をきちんと開かせるとともに、記載されている各種資料の読み取りを行う。 |
| 4～5 | 8 | 世界の中の日本の位置 | 世界全体における日本の位置を把握する(時差含む) | ・地球儀や世界地図の活用 |
| 5～6 | 10 | 世界のさまざまな生活と環境 | 気候や環境による生活様式の違い ※暑い地域・寒い地域・標高の高い地域など | ・地図帳の活用 |
| 6 | 8 | アジア州 | アジア州を地域別に分けて考察 (東アジア・東南アジア・南アジア・西アジア・中央アジア) | ・ICT機器を活用した調査活動や画像などの資料提示 |
| 6～7 | 5 | ヨーロッパ州 | ヨーロッパ州の全体像・歴史・文化・地域統合 ヨーロッパ内の格差・ロシア連邦との関係 | ・昨今の社会情勢などを示した新聞記事などの活用 |
| 2学期 8～9 | 5 | 【地理的分野】 アフリカ州 | アフリカ州の全体像・歴史・文化 産業の特徴と課題(振り返り探究活動を実施) | ・教科書や資料集をきちんと開かせるとともに、記載されている各種資料の読み取りを行う。 |
| 9 | 5 | 北アメリカ州 | 北アメリカ州の全体像・歴史・多様な人種 特徴的な農業・先端技術をもつ工業など | ・地図帳の活用 |
| 10 | 4 | 南アメリカ州 | 南アメリカ州の全体像・歴史・特徴的な文化 豊富な自然環境が破壊されるなどの問題など | ・ICT機器を活用した調査活動や画像などの資料提示 |
| 10 | 4 | オセアニア州 | オセアニア州の全体像・歴史・豊富な資源 鉱業・観光業を中心としたアジア州とのつながり | ・昨今の社会情勢などを示した新聞記事などの活用 |
| 10 | 2 | 【歴史的分野】 歴史の移り変わり | 時代の分け方・年表の見方・人物について | |
| 10～ 11 | 5 | 人類の起源と四大文明 | 石器時代・四大文明 | |
| 11 | 5 | 日本の成り立ち | 縄文時代・弥生時代・古墳時代の日本の成り立ち | |
| 11 | 5 | 律令国家の形成と世界 | 飛鳥時代～奈良時代の日本の動き | |
| 11 | 5 | 貴族社会の発展 | 平安時代の日本独自の文化の醸成と摂関政治 | |
| 3学期 1 | 7 | 【歴史的分野】 武家政治の始まり | 平安時代末期からの武家社会の発展と鎌倉時代の 政権体制や文化 | ・教科書や資料集をきちんと開かせるとともに、記載されている各種資料の読み取りを行う。 |
| 1～2 | 9 | 武家政権の内と外 | 東アジア諸国の動きと室町時代の政治・文化と下剋上 | ・地図帳の活用 |
| 2 | 6 | 大航海時代と結び付く世界 | ヨーロッパの世界進出のようす | ・ICT機器を活用した調査活動や画像などの資料提示 |
| 3 | 6 | 戦乱の世から全国統一へ | 下剋上の世からの天下統一のようす | ・昨今の社会情勢などを示した新聞記事などの活用 |

評価計画

| 評価の観点 | 観点の内容 | 観点の指導目標 | 評価材料 |
|---------------|---|--|---|
| 知識・技能 | 【地理的分野】 世界各州や国ごとの様子および日本の領域について基礎的・基本的な知識を身につけるとともに、世界各州や国の自然環境や経済状況など違いや日本の領域の特徴について写真や映像資料、雨温図、その他の資料から読み取る。 【歴史的分野】 古代～近世の日本や世界で起きた歴史的事象について、基礎的・基本的な知識を身につけるとともに、古代～近世の歴史的事象について、写真や映像資料、統計資料などから読み取る。 | 【地理的分野】 世界各州や国ごとの様子や日本の領域を大まかに把握し、必要な知識を身につけているとともに、写真や映像資料、雨温図などから、世界各州や国ごとの自然環境や経済状況などの違いや、日本の領域の特徴を読み取っている。 【歴史的分野】 古代～近世の各時代の歴史的事象を大まかに把握し、必要な知識を身につけているとともに、写真や映像資料、統計資料などから、古代～近世の歴史的事象の特徴を読み取っている。 | ・定期考査 ・プリントの記入内容 ・白地図の記入内容 ・毎回の授業ごとに記入したチェックシートの記入内容 ・ワークブックの取り組み |
| 思考・判断・表現 | 【地理的分野】 世界各州や国ごとの近年における変化や日本の領域についての実態を、写真や統計資料などから考察し、追究そして解決しようとしている。 【歴史的分野】 古代～近世の各時代ごとのできごとの背景について、写真や統計資料などから考察そして追究する。 | 【地理的分野】 世界各州や国ごとおよび日本の領域の近年における変化について各種資料などを用いて考察し、追究しようとするとともに、キーワードをなる語句を使って説明している。 【歴史的分野】 各時代ごとのできごとに潜む背景を、各種資料などを用いて考察し、追究しようとするとともに、キーワードとなる語句を使って説明している。 | ・定期考査 ・授業や探究活動での発表 ・ワークシートに記入した感想の内容 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 【地理的分野】 地球について、地域区分について、世界各国のようすや日本の領域の様子について関心をもつ。 【歴史的分野】 古代～近世の日本や世界で起きた歴史的事象について関心をもつとともに、自らが生活する地域や受け継がれてきた伝統や文化への関心をもつ。 | 【地理的分野】 世界各地の人々の生活と環境の多様性や日本の領域に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている。 【歴史的分野】 各時代の特徴についての歴史的事象に関する関心を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている。 | ・定期考査 ・授業に対する取り組み(授業態度・発言内容等の授業内評価) ・チェックシートの記入内容 ・各種提出物の内容 |

※学習のアドバイス(授業・家庭学習への取り組み・学習方法・課題への取り組みの例)

- ・授業規律(授業遅刻しない・忘れ物をしない・私語等をしない・タブレットの使い方)を守る。
- ・授業中は集中して話を聞き、プリントへの記入をしっかりと行う。
- ・授業の「学び」を確かなものにするため、チェックシートで授業のふり返りを行う。
(授業内に終わらなければ、家庭学習で行ってもよい)
- ・家庭学習では、授業で学んだ内容(プリント・教科書を中心に読み返すなど)の復習を推奨。

令和8年度 数学科 1学年 指導計画

八王子市立ひよどり山中学校

| 月 | 時間 | 単元 | 学習内容 | 指導の工夫点 |
|-------------|-----------|---------------|----------------|---|
| 1 学 期 | 5 | 1章 正の数・負の数 | 1節 正の数・負の数 | 机間指導による個別対応 グループ学習などにおいて、学び合い学習の場を多く設定する。 生徒自身で、数学的な考えを発表する場を多く設定し、考えを共有し深める。 |
| | 18 | | 2節 正の数・負の数の計算 | |
| | 1 | | 3節 正の数・負の数の利用 | |
| | 2 | 章末問題 | | |
| | 7 | 2章 文字の式 | 1節 文字を使った式 | |
| 8 | 2節 文字式の計算 | | | |
| 2 | 章末問題 | | | |
| 2 学 期 | 7 | 3章 方程式 | 1節 方程式 | 机間指導による個別対応 グループ学習などにおいて、生徒自身が根拠を明確にし、人に数学的に説明をする場を創造する。 |
| | 8 | | 2節 方程式の利用 | |
| | 2 | | 章末問題 | |
| | 3 | 4章 変化と対応 | 1節 関数 | 「なぜ?」「どうして?」という疑問のアンサーを全体で考えるとともに、クラスで共有し、より一層数学的な考え方を深める。 |
| | 6 | | 2節 比例 | |
| | 5 | | 3節 反比例 | |
| | 2 | | 4節 比例、反比例の利用 | |
| | 2 | 章末問題 | | |
| | 3 | 5章 平面図形 | 1節 直線と図形 | |
| | 8 | | 2節 移動と作図 | |
| 5 | 3節 円とおうぎ形 | | | |
| 2 | 章末問題 | | | |
| 3 学 期 | 11 | 6章 空間図形 | 1節 立体と空間図形 | 机間指導による個別対応 グループ学習などにおいて、生徒自身が根拠を明確にし、人に数学的に説明をする場を創造する。 |
| | 6 | | 2節 立体の体積と表面積 | |
| | 2 | | 章末問題 | |
| | 7 | 7章 データの活用 | 1節 ヒストグラムと相対度数 | 「なぜ?」「どうして?」という疑問のアンサーを全体で考えるとともに、クラスで共有し、より一層数学的な考え方を深める。 |
| | 3 | | 2節 データにもとづく確率 | |
| 1 | 章末問題 | | | |

合計126時間(予備時数 14時間) 【年間標準時数】140

評価計画

| 評価の観点 | 観点の内容 | 観点の指導目標 | 評価材料 | |
|-------|--|---|--|--|
| 知識・技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・正負の数の意味を理解する。 ・計算法則を理解する。 ・正負の数の計算、文字式の計算を解く。 ・方程式の意味を理解する。方程式を解く。 ・関数の意味を理解する。関数(比例、反比例)の表やグラフを描き、式をつくる。 ・図形の移動について理解する。図形の面積や体積を求める。 ・平面図形、空間図形の用語を覚える。 ・資料の表やグラフなどを覚え、その使い方を理解する。資料を表やグラフにする。代表値を求める。 | <ul style="list-style-type: none"> ・正負の数の意味が理解できる。正負の数の計算ができる ・計算法則が理解できる。文字式の計算ができる。 ・方程式の意味が理解できる。方程式が解ける。 ・関数の意味が理解できる。 ・関数(比例、反比例)の表やグラフを描き、式をつくることができる。 ・図形の移動について理解できる。図形の面積や体積を求めることができる。 ・平面図形、空間図形の用語を覚える。 ・資料の表やグラフなどを覚え、その使い方が理解できる。資料を表やグラフにすることができる。代表値を求めることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> 定期考査 小テスト テスト直しシート 課題の内容 | |
| | 思考・判断・表現 | <ul style="list-style-type: none"> ・計算や表、グラフなどをいろいろな事象に応用、利用をする。 ・平面図形、空間図形の応用問題に取り組む。 ・資料を活用する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・計算や表、グラフなどをいろいろな事象に応用、利用することができる。 ・平面図形、空間図形を利用した応用問題を解くことができる。 ・資料を活用することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> 定期考査 テスト直しシート 課題を数学的に考え説明できているか |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | <ul style="list-style-type: none"> ・正負の数計算、文字式の計算、方程式の解法、変数、関数に進んで取り組もうとする。 ・平面図形や、空間図形に興味をもち、長さ、面積、体積を進んで求めようとする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・正負の数計算、文字式の計算、方程式の解法、変数、関数に進んで取り組もうとさせる。 ・平面図形や空間図形に興味をもち、長さ、面積、体積を進んで求めようとする。 | <ul style="list-style-type: none"> 授業において課題を見つけ改善するための行動をとっているか 課題の内容 学習シート |

※学習のアドバイス(授業・家庭学習への取り組み・学習方法・課題への取り組みの例)

- ・授業のあった日に必ず復習をする。
→学習した内容を思い出す。無理ならノートを見る。授業で学習した問題をやり直す。
- ・何が分かればよいか、どうすればよいか、根拠を明確にし、説明できるような学習をする。人に説明する機会を多く作り、理解を深める。
- ・普段の生活と数学の学習を関連させる。
- ・努力を継続する。

| 月 | 時間 | 単元 | 学習内容 | 指導の工夫点 |
|---------|----|--------------------------------------|--|--|
| 1 学期 | 25 | 【生命】 自然の中にあふれる生命 いろいろな生物とその共通点 | 1章 植物の特徴と分類 2章 動物の特徴と分類 | ・実験、観察、学び合い活動 などでの班活動 ・実験レポートの活用 ・ICT機器を活用した画像や 動画などの資料の提示 ・学習用個別端末を使用した 実験、観察データの使用、意 見交換の実施 ・個別、小集団で観察に取り 組めるような環境・設備づく り ・ユニバーサルデザインを意 識した学習プリント、ファイル 指導 ・実技テスト (顕微鏡などの実験器具) |
| | 12 | 【物質】 身のまわりの物質 | 1章 いろいろな物質とその性質 2章 いろいろな気体とその性質 | |
| 2 学期 | 16 | 【物質】 身のまわりの物質 | 3章 水溶液の性質 4章 物質のすがたとその変化 | |
| | 25 | 【エネルギー】 光・音・力による現象 | 1章 光による現象 2章 音による現象 3章 力による現象 | |
| 3 学期 | 26 | 【地球】 活きている地球 | 1章 身近な大地 2章 ゆれる大地 3章 火をふく大地 4章 語る大地 | |

評価計画

| 評価の観点 | 観点の内容 | 観点の指導目標 | 評価材料 |
|---------------|---|---|--|
| 知識・技能 | 自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。 | 物質のすがたや水溶液、状態変化、大地の成り立ち、いろいろな動物、植物の共通点、光・音・力に関する事物・現象について、日常生活や社会と関連付けながら、理解しているとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けている。 | ・授業プリントの記述 ・定期考査 ・小テスト ・実験器具の実技テスト ・実験、観察の様子 |
| 思考・判断・表現 | 自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して理解し、表現するなど、科学的に探究している。 | 物質のすがたや水溶液、状態変化、大地の成り立ち、いろいろな動物、植物の共通点、光・音・力に関する現象について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、日常生活と関連付けてその結果を分析して解釈し、規則性や関係性、量的な関係を見いだして表現している。 | ・授業プリントの記述 ・定期考査 ・レポート提出 ・授業への取り組みの様子 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 自然の事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり、振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。 | 物質のすがたや水溶液、状態変化、大地の成り立ち、いろいろな動物、植物の共通点、光・音・力に関する事物・現象に進んでわり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探求しようとしている。 | ・授業プリントの記述 ・ワーク完全学習などの課題 ・授業への取り組みの様子 ・出席の状況 ・探究学習の発表やスライド作成など |

※学習のアドバイス(授業・家庭学習への取り組み・学習方法・課題への取り組みの例)

- ・実験や観察の器具や手順をよく理解しましょう。そして安全に取り組みましょう。
- ・章や単元が終わったら、プリントや完全学習を使って復習しましょう。
- ・問題を解いてみて分からないことは友達や先生に質問をしたり、調べたりしてみてください。

令和8年度 英語科 第1学年 年間指導計画

八王子市立ひよどり山中学校

| 月 | 時間 | 単元 | 学習内容 | 指導の工夫点 |
|----|----|-----------------------|--|---|
| 4 | 10 | Starter 1~6 | 小学校の復習 | *年間を通して、授業の初めに歌やペアワークなどのウォーミングアップ活動を行う。 *ALT との TT で授業を行う際には、原則英語のみで行う。 *Lesson ごとにパフォーマンステストや単元別テストなどを実施する。 *定期テストごとにノートを回収し、点検する。 *学期に1回、スピーチを行う。 |
| | 11 | Lesson 1 | About Me be 動詞 (am, are)、一般動詞、what | |
| 6 | 1 | Words & Sounds 1 | How many ~? | |
| | 9 | Lesson 2 | My Hero can | |
| | 1 | Words & Sounds 2 | when | |
| 7 | 9 | Lesson 3 | My Treasure be 動詞 (is)、who、代名詞 | |
| | 1 | Take Action! Talk 1 | 道案内 | |
| | 1 | Take Action! Read 1 | 町の案内図 | |
| | 9 | Lesson 4 | My Summer Plans 小学校の復習、where | |
| 8 | 1 | Take Action! Listen 1 | フードコートの店内放送 フードコートでの注文 | |
| | 5 | Take Action! Talk 2 | What Am I? | |
| | 11 | Project 1 | Ms. Brown's Family | |
| | 1 | Lesson 5 | 三人称単数現在形、whose 競技会場の注意事項 | |
| | 10 | 1 | Take Action! Listen 2 | スケート場のイベント |
| 11 | 11 | Take Action! Read 2 | School Life in the U.S.A. 現在進行形、which | |
| | 1 | Lesson 6 | イベントのお知らせ 体調不良 | |
| | 9 | Take Action! Listen 3 | Athletes with Sprit 一般動詞 (過去形) | |
| 12 | 5 | Take Action! Talk 3 | 理想のロボット選手権 | |
| | 5 | Lesson 7 | Alice and Humpty Dumpty | |
| 1 | 11 | Project 2 | Discover Japan be 動詞 (過去形)、過去進行形、 | |
| | 1 | Reading Lesson 1 | look 形容詞 | |
| 2 | 1 | Lesson 8 | 新作映画の予告編 映画のチケット | |
| | 11 | Take Action! Listen 4 | Emergency Food 未来の表現 | |
| | 1 | Take Action! Read 3 | 週末の天気予報 手伝いのお願い | |
| 3 | 5 | 3 | 日本の「昔話」の紙芝居 | |

| | | | |
|---|-----------------------|---------------------|--|
| 5 | Lesson 9 | Sleepy Lord Thunder | |
| | Take Action! Listen 5 | | |
| | Take Action! Talk 4 | | |
| | Project 3 | | |
| | Reading Lesson 2 | | |

第1学年 年間評価計画

教科担当 井上 志穂・山下 和樹・野口 遼太・中島 亜由子

| 評価の観点 | 観点の内容 | 観点の指導目標 | 評価材料 | 比率 |
|---------------|---|--|--|----|
| 知識・技能 | ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解している。 ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けている。 | ・教科書の内容や関連する文法を理解する。 ・単語、文法事項を正しく理解する力を育成する。 ・相手の意図することを正しく理解する力を育成する。 | ・定期考査 ・単元別テスト ・パフォーマンステスト ・スピーチ ・単語テスト ・スペコン ・小テスト など | 1対 |
| 思考・判断・表現 | コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりしている。 | 会話、あるいは英文を通して、英語で表現できる力を育成する。 | ・定期考査 ・単元別テスト ・パフォーマンステスト ・スピーチ ・小テスト など | 1対 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。 | 他人との関わりを言語、あるいは行動を通してきちんと取る力、及びその態度を育成する。 | ・授業中の取り組み方 ・定期考査 ・課題、ノートの取り組みの内容 など | 1対 |

令和8年度 音楽科 1学年音楽指導計画

八王子市立ひよどり山中学校

| 月 | 時間 | 単元 | 学習内容 | 指導の工夫点 | |
|-------------|------------------|---|--|--|--|
| 1 学 期 | 4 | オリエンテーション 歌唱「校歌」 | | 《学習記録カードの活用》 毎時の目標と自己評価の記入 | |
| | 随時 | 発声および楽典「音 (休)符・楽譜の見方」 | 《歌唱》 ・発声の基礎を学び、歌唱に活かす。 ・混声合唱のパートの役割を知り、表現を工夫しながら歌う。 | 《グループ活動》 ・合唱パート別による活動。リーダーを中心に練習する。 ・楽典を継続して行い、互いに確認し合う。 | |
| | 2 | 鑑賞「春」 | ・パート練習を通して、互いに協力し、助言し合いながら取り組む。 | 《プリントの活用》 ・歌唱や楽典、鑑賞の知識を確認するために活用する。 | |
| | 1 | 指揮法の基礎 | ・楽譜の読み取りに必要な楽典を学習し、表現に活かす力をつける。 | 《実技テストの実施》 ・校歌、指揮などのテストを行う。 | |
| | 3 | 楽典「リズム」 歌唱(混声3部合唱) 「大切なもの」 (課題曲) | ・指揮の役割と基本的な振り方を学ぶ。 《鑑賞》 ・音楽の特徴とその背景となる文化や歴史との関わりについて学習し、音楽の良さや美しさを味わう。 | | |
| | 1 | 和楽器:和太鼓 | | | |
| | 1 | 「日本の民謡」について 合唱コン(自由曲)の レポート | | | |
| | 夏 の 課 題 | | | | |
| | 2 学 期 | 6 | 合唱コンクールへ向け て (課題曲・自由曲) | | 《学習記録カードの活用》 毎時の目標と自己評価の記入 《グループ活動》 ・合唱パート別による活動。リーダーを中心に練習する。 ・楽典を継続して行い、表現するための思いや意図を持つ。 |
| | | 随時 | 発声および楽典 「いろいろなリズム」 | 《歌唱》 ・発声の基礎を学び、歌唱に活かす。 ・混声合唱のパートの役割や全体の響きを感じ取り、表現を工夫しながら合わせて歌う。 ・パート練習を通して、互いに協力し、助言し合いながら合唱曲を仕上げる。 | 《プリントの活用》 ・楽典の知識を確認するために繰り返し活用する。 |
| 2 | | 鑑賞「魔王」 | ・楽譜の読み取りに必要な楽典を学習し、表現に活かす力をつける。 | 《実技テストの実施》 ・合唱曲のまとめとしてテストを行う。 | |
| 3 | | 器楽 (アルトリコーダー) | 《器楽》 ・アルトリコーダーで、基本的な奏法ができるように学習する。様々な奏法を知り、曲の中で活用していく。 | | |
| 3 | | 創作「リズム」 | | | |
| 3 学 期 | 2 | 歌唱「赤とんぼ」 | | | |
| | 3 | 鑑賞 日本の音楽 「六段の調」 | 《歌唱》 ・発声の基礎を学び、歌唱に活かす。 ・混声合唱のパートの役割や全体の響きを感じ取り、表現を工夫しながら合わせて歌う。 ・パート練習を通して、互いに協力し、助言し合いながら取り組む。 | 《学習記録カードの活用》 毎時の目標と自己評価の記入 《グループ活動》 ・合唱パート別による活動。リーダーを中心に練習する。 ・楽典の知識を互いに確認し合う。 | |
| | 5 | 随時 1 器楽 (アルトリコーダー) | ・楽譜の読み取りに必要な楽典を学習し、表現に活かしていく。 | 《プリントの活用》 ・楽典の知識を確認するために繰り返し活用する。 | |
| | 2 | 鑑賞「アジアの音楽」 | 《器楽》 ・アルトリコーダーで、基本的な奏法ができるように学習する。様々な奏法を知り、曲の中で活用していく。 | 《実技テストの実施》 ・箏、リコーダー学習のまとめとしてテストを行う。 | |
| | 2 | 楽典「写譜」 卒業式に向けて | 《鑑賞》 ・音楽の特徴とその背景となる文化や歴史を他の芸術と関連づけて学習し、音楽の良さや美しさを味わう。 | | |

| | | | |
|--|--|----------------------------|--|
| | | 式歌練習 次年度に向けて 混声3部合唱曲 | |
|--|--|----------------------------|--|

評価計画

| 評価の観点 | 観点の内容 | 観点の指導目標 | 評価材料 | 割合 |
|---------------|--|--|--|-------------|
| 知識・技能 | ・曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。 | ・曲想と音楽の構造とその関わりを理解する。 ・音楽の特徴とその背景となる文化や歴史、他の芸術との関わりを理解する。 ・我が国や郷土の伝統音楽及び諸外国の様々な音楽の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性を理解する。 ・音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる用語や記号などについて、音楽における働きと関わらせて理解する。 | ・ 定期テスト ・ 実技テスト ・ ワークシートの内容 | 1 — 3 |
| 思考・判断・表現 | ・音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、表現の創意工夫をしている。 | ・曲や演奏に対する評価とその根拠について考える。 ・生活や社会における音楽の意味や役割について考える。 ・音楽表現の共通性や固有性について考える。 ・鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、音楽のよさや美しさを味わって聴く。 | ・ 授業及び練習態度 ・ 定期テスト ・ 実技テスト ・ 課題への取り組み内容 ・ ワークシートの内容 | 1 — 3 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | ・音や音楽、音楽文化に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。 | ・歌唱では、歌詞が表す情景や心情及び曲の表情や味わいを感じとり、旋律と言葉との関係に関心をもつ。 ・鑑賞、創作では、音色や音の重なり方等の違いによる音楽が生み出す雰囲気や表情の変化に関心をもつ。 ・器楽では、楽器の構造や奏法による音色等の違いに関心をもつ。 音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。 | ・ 授業及び練習態度 ・ 出席の状況 ・ 遅刻・忘れ物の回数 ・ 課題への取り組み内容 ・ ワークシート提出及び内容 | 1 — 3 |

※学習のアドバイス

- ・授業規律(授業遅刻・忘れ物・私語等をなくす)を守る。
- ・授業に集中し、目標を持って取り組む。
- ・特に実技に関しては、失敗を恐れずに、積極的に粘り強く、継続して取り組む。
- ・わからないことは自ら確認する(しっかり発言し、意思表示をする)。

| 月 | 時間 | 単元 | 学習内容 | 指導の工夫点 |
|-------------|----------|---------------------------------|--|--|
| 1 学 期 | 3 随時 | 心の表現としての美術 | 1 ガイダンス (1) 図工と美術の違い (2) 心の表現としての美術 <u>鑑賞教育</u> (1) 絵画から読み取る作家の心【情モ】 ・絵画から読み取る画家の心、メッセージ。 | 楽しく美術の活動に取り組み美術を愛好する心情を培い、心豊かな生活を創造していく意欲と態度の育成。 →シャガール「人生」を題材に導く。 (目標の提示) 自然や美術作品などについての基礎的な理解や見方を広げ、よさや美しさなどを感じとる鑑賞の能力を育成。 →(教科書、資料集を利用した解説→各自プリントにまとめていく) |
| | 8 鑑賞 | | (2) 心の表現までの道のり * フィンセント・ファン・ゴッホ * パブロ・ピカソ→「ゲルニカ」 * レオナルド・ダ・ヴィンチ | 映像教材により時代背景を読み解く <u>実技</u> →表現の基礎 (デッサン) 絵画の基礎となる視点について解説、実技指導を行う。 |
| | 7 | クロッキー 色彩学 用具の使い方 構図の基礎 | 2 実技(クロッキー) テーマ:「スプーンに写った自画像」 対象を深く観察する力、感性や想像力を高め、豊に発想し構想する能力や基礎的技能を身に付け、多様な表現方法や造形要素に関心を持ち、創意工夫し美しく表現する能力を育てる。 | |
| | 1 | 色彩学 | 1 実技<アクリル絵画・着彩> 「スプーンに写った自画像」 | ・絵画における形、色、材料、技法の基礎。 ・絵画の基礎 (混色及び技法を解説) |
| 2 学 期 | 1 随時 | 鑑賞 | 2 鑑賞<友達の作品を鑑賞しよう> | ・鑑賞→互いの作品、表現のよさ個性の尊重 |
| | 15 随時 | 木彫(鎌倉彫りの基礎) | 3 実技<木彫> 「鎌倉彫り:木彫壁かざり」 * テーマ【植物】→構成の仕方。 * トレーシングによる転写。 * 刃物の作りと安全な扱い方。 * 彫刻刀の扱い方と安全な管理。 * 片切彫りの基礎。 | ・日本の伝統工芸に学ぶ日本のすばらしさ。 ・刃物の安全な扱い方 ・自然を観察する目と心の育成 ・木彫(鎌倉彫)の基礎の習得 |
| 3 学 期 | 8 | 仕上げと鑑賞 | * 仕上げと塗装(準備と片付け) * 塗料の性質の理解(エコ) | 主体的に造形的な美しさなどを総合的に考えて下絵を考えさせる→日本の伝統文様【オリパラ】 |
| | 1 | | 鑑賞<おおり展・都展・校内作品展> * 友達や先輩の作品に学ぼう | |

| 評価の観点 | 観点の内容 | 観点の指導目標 | 評価材料 |
|---------------|--|--|---|
| 知識・技能 | <ul style="list-style-type: none"> 美術作品などについての基礎的な理解や見方を広げ、よさや美しさなどを感じとる鑑賞の能力を持ち、生活を美しく豊かにする美術の働きについての理解や見方を深めたりしている。 感性や想像力を働かせ、自然や美術作品などについての基礎的な理解や見方を広げ、よさや美しさなどを感じとる鑑賞の能力を持ち、生活を美しく豊かにする美術の働きについての理解や見方を深めたりしている。 | <ul style="list-style-type: none"> 観察したことや考えたことを基にして、表し方の工夫をして構成することができる。 表現意図に応じて、材料や用途の特性、生かし方などを総合的に考え、表現方法を選択し工夫して主体的に表すことができる。 いきいきと美しく表す構想を練ることができる。 作者(作家)の心情や意図、表現の工夫などを感じ取り、理解することができる。 | <p><u>鉛筆による素描</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 画面構成の基礎 色彩構成の基礎 鉛筆の使い方(明度表現) 自由課題の提出 など 文章から読み取れる情景の表現 <p><u>定期考査</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 実技テスト(プリント等) 筆記テスト「鑑賞」 鑑賞レポート 作品制作 提出物 など |
| 思考・判断・表現 | <ul style="list-style-type: none"> 感性や想像力を働かせて、伝えたい内容、見る者の気持ちなどを基に造形的な美しさなどを総合的に考えわかりやすく伝える表現の構想を練っている 感性や想像力を働かせて、自分の姿を深く見つめ感じ取ったこと、考えたことなどを基に、主題を生み出し、単純化や省略、強調、材料の組み合わせなどを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かな表現の構想を練っている。 | <ul style="list-style-type: none"> 自然や身の回りのものの良さや美しさなどを深く感じ取ることができ、想像力を働かせ、それを豊かに広げることができる。 いきいきと美しく表す構想を練ることができる。 自然や造形作品などの良さを深く味わうことができ、美術と人間との関わりに関心をもって、主体的に鑑賞することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> 授業態度(資料収集) 取り組み態度 作品制作 文章から読み取れる情景の表現 実技テスト(プリント等) 提出物 など |
| 主体的に学習に取り組む態度 | <ul style="list-style-type: none"> 美術に興味関心を持ち、心の表現としての美術、絵画から読み取れる画家の心、メッセージを伸びやかな発送をもって感じ取ろうとしている。 楽しく美術の活動に取り組み美術を愛好する心情と、心豊かな生活を創造していく意欲と態度を持っている。 | <ul style="list-style-type: none"> 美術に興味関心を持ち、心の表現としての美術、絵画から読み取れる画家の心やメッセージを伸びやかな発送をもって感じとれる感性を身につけさせる。 | <ul style="list-style-type: none"> 授業態度・取り組み姿勢 出席の状況 遅刻・忘れ物の状況 提出物(内容・技術習得) 定期考査への取り組み 美術館鑑賞等(自由課題) 授業プリント作成における取り組み姿勢 |

※学習のアドバイス(授業・家庭学習への取り組み・学習方法・課題への取り組みの例)

- ・授業規律をしっかりと守る。
- ・意欲的に取り組む。資料収集や、授業で学んだ内容の実践(美術館訪問等)
- ・振り返りを行う。資料集での事後確認。
- ・鑑賞プリントを活用して復習をする。

| 月 | 時間 | 単元 | 学習内容 | 指導の工夫点 |
|---------|----|----------------|---|---|
| 1 学期 | 11 | 体づくり運動 体力測定 | 体ほぐしの運動 体力を高める運動 ラジオ体操 集団行動 など ※心と体の関係に気付く 課題に応じた活動を選ぶ スポーツテスト 50m走 持久走 反復横跳び 立ち幅跳び 長座体前屈 握力 上体起こし ハンドボール投げ | 学習カードの活用 自己評価・次回の課題の確認 グループ別活動 種目別・グループ別による活動。互いに教えあう。 |
| | 13 | 陸上競技 | 短距離走 リレー競技 など ※クラウチングスタート、滑らかな動き、リズムカルな動き リレー：バトンパス など。 | |
| | 9 | 水泳 | クロール・平泳ぎの基本練習、記録測定 など ※手足の動き、呼吸、速く泳ぐ、長く泳ぐ | |
| | 3 | 体育理論 | 運動やスポーツの多様性 | グループ別による活動 学習ノートの活用 学習ノートでまとめをする |
| 2 学期 | 11 | 器械運動 | マット運動 跳び箱運動 ※滑らかな基本的な技、条件を変えた技、発展技術 を身に付け、回転系や技巧系や切り返し系や回転系の技を組み合わせる | 学習カードの活用 自己評価・次回の課題の確認 グループ別活動 種目別・グループ別による活動。互いに教えあう。 |
| | 10 | 武道 | 基本動作の受け身と固め技 など ※正しい受け身の取り方、崩し方、けさ固め等 | |
| | 8 | 球技 | ベースボール型 ※ゲームを楽しく行うための基本技術の習得 キャッチボール・ティーバッティング等 | |
| | 9 | 球技 | ネット型 ※ゲームを楽しく行うための基本技術の習得 オーバーパス・アンダーパス・サーブ等。 | |
| | 5 | 保健 | 心身の機能の発達と心の健康 健康の成り立ちと疾病の予防 | 学習ノートの活用 学習ノートでまとめをする |
| 3 学期 | 9 | 球技 | ゴール型 ※ゲームを楽しく行うための基本技術の習得 パス・シュート・トラップ等。 | 学習カードの活用 自己評価・次回の課題の確認 グループ別活動 種目別・グループ別による活動。互いに教えあう。 |
| | 8 | ダンス | リズムダンス・創作ダンス・フォークダンス など ※リズムの特徴を捉え、変化のある動きを組み合わせ てリズムに乗って踊る | レポート（上記と同様） |
| | 11 | 保健編 | 心身の機能の発達と心の健康 | 学習ノートの活用 |

| 評価の観点 | 観点の内容 | 観点の指導目標 | 評価材料 | 割合 |
|------------|---|--|--|-----|
| 知識・技能 | 運動の合理的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに実践するための理論について理解しているとともに、運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けている。また、個人生活における健康・安全について科学的に理解しているとともに、基本的な技能を身に付けている。 | 運動の特性や合理的な実践、日常生活・生涯における運動の意義を理解し、知識を身に付けさせる。 運動の楽しさや喜び、できたときの達成感を味わわせるために必要な、技能や体力を高めるための適切な行い方を身に付けさせる。 | 実技テスト 測定記録 試合の中の動き 期末考査(筆記テスト) 学習カードの内容 | 1/3 |
| 思考・判断・表現等 | 自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。また、個人生活における健康に関する課題を発見し、その解決を目指して科学的に思考し判断している。 | 自己の能力に適した運動の課題解決を目指して活動の仕方を考え、工夫させるとともに他者に伝える力をつけさせる。 健康・安全について科学的に思考・判断し他者に伝える力をつけさせる。 | 練習への取り組み方 学習カードの内容 実技テスト 授業観察 期末考査(筆記テスト) ノートの記入内容 | 1/3 |
| 主体的に取り組む態度 | 運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、運動の合理的な実践に自主的に取り組もうとしている。また、健康を大切にし、自他の健康の保持増進や回復についての学習に自主的に取り組もうとしている。 | 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の役割を果たす、一人一人の違いを認めようとする意欲を育てる。 自主的に運動を実施し、運動の楽しさや喜びを体得させ、日常生活・生涯において、健康・安全に関心をもたせ、自己の最善を尽くして運動する態度を養う。 | 授業に取り組む姿勢(安全を考慮した身だしなみ、準備運動への取り組み等) 練習への取り組み姿勢(自己の課題に粘り強く取り組む、仲間と協力する等) 学習カードの記入内容 ノートの記入内容 | 1/3 |

※学習のアドバイス

- ・授業規律(授業時間の厳守・服装など授業準備をする・話を聞く姿勢等)をしっかり守る。
- ・安全に留意し、各種の運動の特性を考え意欲的に取り組む。
- ・学習カードで各単元の運動の目標を理解し、授業内容の振り返りを行う。
- ・保健分野では、保健資料ノートを活用して復習をする。

| 月 | 時間 | 単元 | 学習内容 | 指導の工夫点 |
|-------------|----|----------------------------------|---|---|
| 1 学 期 | 3 | 技術分野の学習を始めよう! | 1 技術は夢をかなえるためにある 2 技術は未来を創る 3 これからの学習を見てみよう | ・技術の変遷を示す中で、それぞれの時点での課題をどのように克服してきたのかということに気づかせる |
| | 4 | 材料と加工法 (フォト・スマホスタンドの製作) | 1 材料と加工の技術について知ろう 2 材料の基本的な性質を調べよう 3 製品を丈夫にする工夫を知ろう 4 材料に適した加工法を知ろう | ・材料の特徴と使用目的や使用条件が関係していることに気づかせる |
| 2 学 期 | 20 | 製作品の設計・製作 木材加工 (浴用腰掛椅子の製作) | 1 生活に役立つ製作品を構想しよう 2 製作品の構想をまとめよう 3 製作に必要な図 4 作業手順を考えて製作しよう 5 基礎技能 ① けがき ② 切断 ③ 部品加工 ④ 組み立て ⑤ 仕上げ | ・学習した各図法に寸法が記入されると図面として役割を果たすことを説明する。寸法は mm で表示されており、単位は記入しないことに注意させる ・材料に応じたけがきの方法に着目させ、仕上がりが寸法を意識した作業を考えさせる ・正しく作業ができるように全員に正しい作業手順や工具・道具の安全な使い方を明示してから実習に入る ・材料と加工の技術が、社会でどのように関係しているのかを確認するとともに、生活に活用することの大切さを伝える |
| | | 材料と加工の技術の評価・活用 | 材料と加工に関する技術を未来に生かそう | |
| 3 学 期 | 5 | 情報の技術の原理・法則と仕組み | ・情報の技術とは ・情報のデジタル化 ・情報通信ネットワークの仕組み ・安全に利用するための情報モラル ・安全に利用するための情報セキュリティ ・情報の技術の工夫の読み取り | ・身の回りにあるコンピュータの種類や形状、機能などをまとめさせる。 ・アナログ情報とデジタル情報の違いについて考えさせる。 ・文字情報のデジタル化を例にデジタル化の方法を確認させる。 ・画像のデジタル化を例に、デジタル化とデータ量について確認させる。 ・電子メールや SNS など身近な例を取り上げ、情報通信ネットワークを使って、情報をやりとりする仕組みについて説明する。 ・情報セキュリティに関するトラブルの例から、危険性について確認させる。 |

| 評価の観点 | 観点の内容 | 観点の指導目標 | 評価材料 |
|---------------|---|---|--|
| 知識・技能 | <ul style="list-style-type: none"> 生活や社会で利用されている技術について理解しているとともに、それらに係る技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関りについて理解している。 生活や社会、産業のさまざまな場面でコンピュータなどの情報の技術が利用されていることを知る。 | <ul style="list-style-type: none"> 材料と加工法に関する技術に関する技術についての基礎的・基本的な知識を身に付け、技術と社会や環境とのかかわりについて理解している。 材料と加工に関する技術を適切に活用するために必要な基礎的・基本的な技術を身に付けている。 情報の表現や記録ができる仕組みを理解している。 | <ul style="list-style-type: none"> 定期考査 製作品の丁寧さ・綺麗さ 工具の取り扱い方 安全への取り組み |
| 思考・判断・表現 | <ul style="list-style-type: none"> 生活や社会の中から技術に関わる問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 | <ul style="list-style-type: none"> 材料と加工に関する技術の在り方や活用の仕方等について課題を見付けるとともに、その解決のために工夫し創造して、技術を評価し活用している。 情報の技術に込められた工夫を読み取り、「技術の見方・考え方」に気付くことができる。(| <ul style="list-style-type: none"> 定期考査 授業評価シート 製作品の丁寧さ・綺麗さ 工具の取り扱い方 安全への取り組み |
| 主体的に学習に取り組む態度 | <ul style="list-style-type: none"> よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、技術を工夫し創造しようとしている。 | <ul style="list-style-type: none"> 材料と加工に関する技術について関心を持ち、技術の在り方や活用の仕方等に関する課題解決のために、主体的に技術を評価し活用しようとする。 情報が社会に与える影響を理解して、望ましい情報社会のために取るべき態度を身に付けようとしている。 | <ul style="list-style-type: none"> 授業態度 授業評価シート 授業プリント ノート |

※学習のアドバイス

・作業・実習では、「安全第一」で行います。しっかりと先生の話聞き、上手にできるコツをつかみ、けがなく安全で楽しい作業・実習となるように取り組みましょう。

| 月 | 時間 | 単元 | 学習内容 | 指導の工夫点 |
|-------------|--------|---|---|--|
| 1 学 期 | 1 3 | 家庭分野のガイダンス <私たちの家族と家庭生活> 【私たちの食生活】 <食事の役割と中学生の栄養の特徴> 1 食事の役割 2 私たちの食生活 3 栄養素の種類と働き 4 中学生に必要な栄養 <中学生に必要な栄養を満たす食事> 1 食品に含まれる栄養素 2 6つの食品群と食品群別摂取量の目安 3 バランスの良い献立作り <調理のための食品の選択と購入> 1 食品の選択と購入 2 生鮮食品の特徴 | ・家庭・学校・地域での生活と小学校の学習を振り返り、1年間の目標を立てる。 ・食事の役割についてまとめる。 ・食生活を点検し、課題を見つける。 ・心身の健康に良い食習慣について考える。 ・栄養素の種類と働き、水の働きについてまとめる。 ・中学生に必要な栄養の特徴について考える。 ・食品成分表を使い、身近な食品の栄養的な特徴を調べる。 ・身近な食品を栄養的な特徴により6つの食品群に分類する。 ・食品群別摂取量の目安と 1日に必要な食品の種類と概量を知る。 ・中学生に必要な栄養を満たす 1日分の献立を考える。 ・生鮮食品と加工食品の特徴と品質の見分け方を知る。 | ・中学校で家庭科を学ぶ目的や意義を踏まえ、3年間の家庭科の学習に見通しを持てるようにする。 ・生活の中で食事が果たしている役割を考えさせ、食事の役割をまとめる。 ・健康に良い食習慣を身につけて日常生活で実践することの大切さに気付かせる。 ・栄養素の体内での主な3つの働きと五大栄養素を関連させ、まとめる。 ・食事摂取基準から中学生の時期の栄養の特徴を考えさせる。 ・1回に食べやすい食品に含まれる栄養素の量を知らせることにより、いろいろな食品を組み合わせる必要があることを実感させる。 ・食品群の分類についてまとめ、1日に必要な食品の概量を実感させる。 ・栄養素を考えた食品の組み合わせを中心に献立を考えるように指導する。 ・嗜好、費用、調理時間、季節などの点からも検討する必要があることも伝える。 ・さまざまな生鮮食品と身近な加工食品について扱う。 |
| | | 3 加工食品の特徴 4 食品の保存と食中毒の防止 <日常食の調理と地域の食文化> 1 日常食の調理 2 野菜・いもの調理 3 肉の調理 4 魚の調理 5 日本の食文化と和食の調理 <持続可能な食生活> 1 持続可能な食生活を目指して <生活の課題と実践> | ・食品を選択する観点について知る。 ・食品の保存方法を知り、食中毒の防止について考える。 ・安全と衛生に気を付けて、日常食を調理する。 ・食品の調理上の性質を知り、適切に調理する。 ・自分や家族の生活の課題を見つけ、その課題を解決するための計画を立てて実践する。 ・実践したことをまとめて発表する。 ・郷土料理や行事食を調べ、発表する。 ・食生活を取り巻く問題を把握し、自分の食生活をよりよくする方法を考える。 | ・生鮮食品や加工食品の表示についてまとめ、用途に応じて選択するために必要な情報を収集・整理し適切な選択するための工夫をすることができるようになる。 ・肉、魚、野菜の性質や調理方法をまとめ、調理実習につなげる。 ・調理の手順について、安全で能率的な方法を考えさせる。 ・環境に配慮した調理や後片づけができるように助言する。 ・学習した知識と技術を活用し、家庭で実践する意義に気づかせる。 ・実践してわかったこと、これからの生活で更に工夫して生かしたいことまで考えさせる。 ・日本の伝統的な郷土料理や行事食を扱い、日本の食文化を理解させる。 ・食生活を取り巻くさまざまな問題を、いろいろな角度から考えさせる。 |
| | | 【私たちの住生活】 <住まいの役割と安全な住まい方> 1 住まいの役割 2 住まいと気候風土の関わり 3 健康で快適な室内環境 4 家族の住まいを安全・安心に 5 災害への対策 <持続可能な住生活> 1 持続可能な住生活を目指して | ・住まいの役割や基本的な機能について考える。 ・自分や家族の生活と住まい方との関わりを考える。 ・家庭内事故とその原因について知り、安全に住むために改善できることを考える。 ・住まいの災害対策について知り、災害に備えてできることを考える。 ・健康で快適な室内環境の条件を知り、改善方法を考える。 ・家族が安全で快適に住むための室内環境について課題を見つけ、改善方法を考える。 | ・住空間と生活行為との関係を理解させ、家族がどのような生活を重視するかで、住まい方が異なることに気づかせる。 ・家庭内事故の具体例から、安全管理の方法を考えさせる。 ・災害の特徴を知らせ、住まいの災害対策を具体的に考えさせる。 ・室内の空気の汚染や音の及ぼす影響を取り上げ、室内を整える必要性に気づかせ、改善方法を考えさせる。 ・家族が安全で快適に住むための工夫を考えさせる。 |

| 評価の観点 | 観点の内容 | 観点の指導目標 | 評価材料 |
|---------------|--|---|--|
| 知識・技能 | 家庭・家族の基本的な機能について理解を深め、生活の自活に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている | ・食品の栄養的特質について理解している。 ・食品の選択における観点について理解している。 ・食品や調理用具の安全と衛生に留意した取り扱い方について理解している。 ・食文化の意義について理解している。 ・授業を大切に、学習したことを理解し意欲的に取り組むことができる。 ・実習等には、一生懸命に取り組むことができる。 ・住居の基本的な機能について理解している。 ・家族の生活と住空間との関わりについて理解している。 ・和式の住まいや日本各地の住まいの特徴などと住空間の関わりについて理解している。 ・室内の空気環境など、家族の健康・快適・安全を考えた住空間の整え方について理解している。 | ・定期考査 ・活動状況の観察 ・学習プリント ・課題レポート ・実習 |
| 思考・判断・表現 | これからの生活を展望し、家族・家庭や地域における生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 | ・課題を見つけ、健康によい食習慣などについて考えることができる。 ・中学生の 1日分の献立について必要な料理や食品の組み合わせについて考え工夫している。 ・食生活をよりよくするための課題の解決を目指して日常食の調理などの計画を工夫している。 ・室内の空気環境など、家族の健康・快適・安全を考えた住空間の整え方について考え、工夫している。 | ・定期考査 ・活動状況の観察 ・学習プリント ・課題レポート |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。 | ・身近な食品を選択するために必要な情報を収集・整理することができる。 ・調理の目的や食材に合った基本的な調理操作ができる。 ・安全と衛生に留意して食品や調理器具等の適切な管理ができる。 ・室内の空気環境など、家族の健康・快適・安全を考えた住空間の整え方について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したり、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。 | ・定期考査 ・活動状況の観察 ・学習プリント ・学習カード ・提出物、忘れ物 |

【学習のアドバイス】

・授業規律(忘れ物・プリントに落書き・私語など)をしっかりと守りましょう。

・私たちの体は、自分で食べたものでできています。自分が口にするものに関心を持ちましょう。

・「わからない」と言わず、「自分はどう思うか、どうしたいか」を見つけましょう。

<家庭での取り組み> ◎ 保護者の皆様もご協力お願いいたします。

1:毎朝、朝食は食べ、登校しましょう。

2朝食や夕食の準備片付け、休日の食事作りなど、家族の一員としてできることに挑戦しましょう。

※ 授業で学んだことを生かして、家庭で実践できる課題にも取り組んでもらいます。